

原子力施設等におけるトピックス
(令和2年1月20日～1月26日)

令和2年1月29日
原子力規制庁

○令和2年1月20日～1月26日の間に発生した以下の法令報告事象に該当する事案は、下表のとおり。

- 原子炉等規制法第62条の3又は放射性同位元素等規制法第31条の2に基づく報告事案(発生に係る報告に限る)

発表日	事業者名	事業所名	件名	備考

○主要な原子力事業者(＊)の原子力事業所内で令和2年1月20日～1月26日の間に発生した以下に該当する事案は、下表のとおり。

- 保安規定に定める運転上の制限から逸脱した事案
- 原子炉等規制法第62条の3に基づく報告事項に該当しないが安全確保に関する事案で、事業者がプレス公表したもの

＊……原子力発電所を所有する電気事業者、日本原子力研究開発機構及び日本原燃(株)

発表日	事業者名	事業所名	件名	備考
1月20日	四国電力株式会社	伊方発電所	3号機 燃料集合体落下信号の発信について	
1月25日	四国電力株式会社	伊方発電所	1,2号機屋内開閉所における18万7千V送電線からの受電停止について	

<参考> 海外の原子力施設におけるトピックス
該当なし

<その他>
該当なし

令和2年1月20日
四国電力株式会社

伊方発電所3号機 燃料集合体落下信号の発信について

第15回定期検査中の伊方発電所3号機（定格電気出力89万キロワット）原子炉建屋4階（管理区域内）において、燃料集合体を点検するために使用済燃料ピット内を移動させていたところ、本日14時18分、燃料集合体の落下を示す信号が発信しました。

確認の結果、燃料集合体を点検用ラックに挿入する際に、当該ラックの枠に乗り上げたことにより使用済燃料ピットクレーンの吊り上げ荷重が減少したため、信号が発信したものであり、燃料集合体は落下しておりません。

その後、燃料集合体を吊り上げ、16時12分、元の位置に戻しました。

今後詳細調査を実施します。当該燃料集合体はMOX燃料ではありません。

なお、本事象による環境への放射能の影響はありません。

以 上

（四国電力株式会社HP掲載）

令和2年1月21日
四国電力株式会社

伊方発電所3号機 燃料集合体落下信号の発信について（続報）

第15回定期検査中の伊方発電所3号機（定格電気出力89万キロワット）原子炉建屋4階（管理区域内）において、燃料集合体を点検するために使用済燃料ピット内を移動させていたところ、1月20日14時18分、燃料集合体の落下を示す信号が発信しました。

確認の結果、燃料集合体を点検用ラックに挿入する際に、当該ラックの枠に乗り上げたことにより使用済燃料ピットクレーンの吊り上げ荷重が減少したため、信号が発信したものであり、燃料集合体は落下しておりません。

その後、燃料集合体を吊り上げ、同日16時12分、元の位置に戻しました。当該燃料集合体はMOX燃料ではありません。

（1月20日お知らせ済み）

本日、水中カメラにより当該燃料集合体の外観を確認した結果、異常がないことを確認しました。

今後、燃料集合体が点検用ラックの枠に乗り上げた原因を詳細に調査します。

以 上

（四国電力株式会社HP掲載）

令和2年1月25日
四国電力株式会社

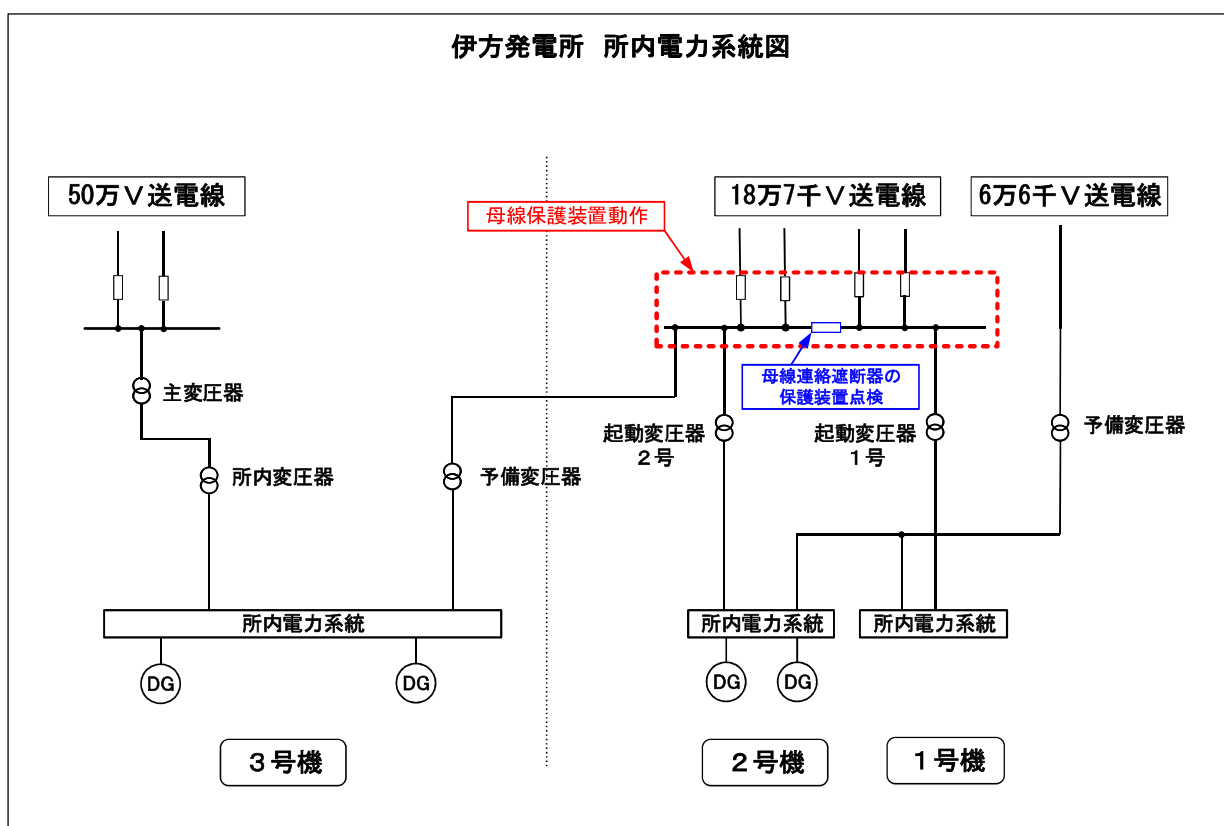
伊方発電所 18万7千V送電線からの受電停止について

伊方発電所1、2号機の屋内開閉所（管理区域外）において、本日15時44分、保護装置の動作により18万7千V送電線4回線からの受電が停止しました。

このため、1、2号機は直ちに6万6千Vの予備系統から受電しました。また、3号機は直ちに起動した非常用ディーゼル発電機から受電し、その後、50万V送電線からの受電に切り替えました。これにより、1、2、3号機ともに外部からの受電は復旧しました。

今後、詳細調査を実施します。

なお、本事象による環境への放射能の影響はありません。



以上

(四国電力株式会社HP掲載)

令和2年1月27日
四国電力株式会社

伊方発電所 18万7千V送電線からの受電停止について（続報）

伊方発電所1、2号機の屋内開閉所（管理区域外）において、1月25日15時44分、保護装置の動作により18万7千V送電線4回線からの受電が停止しました。

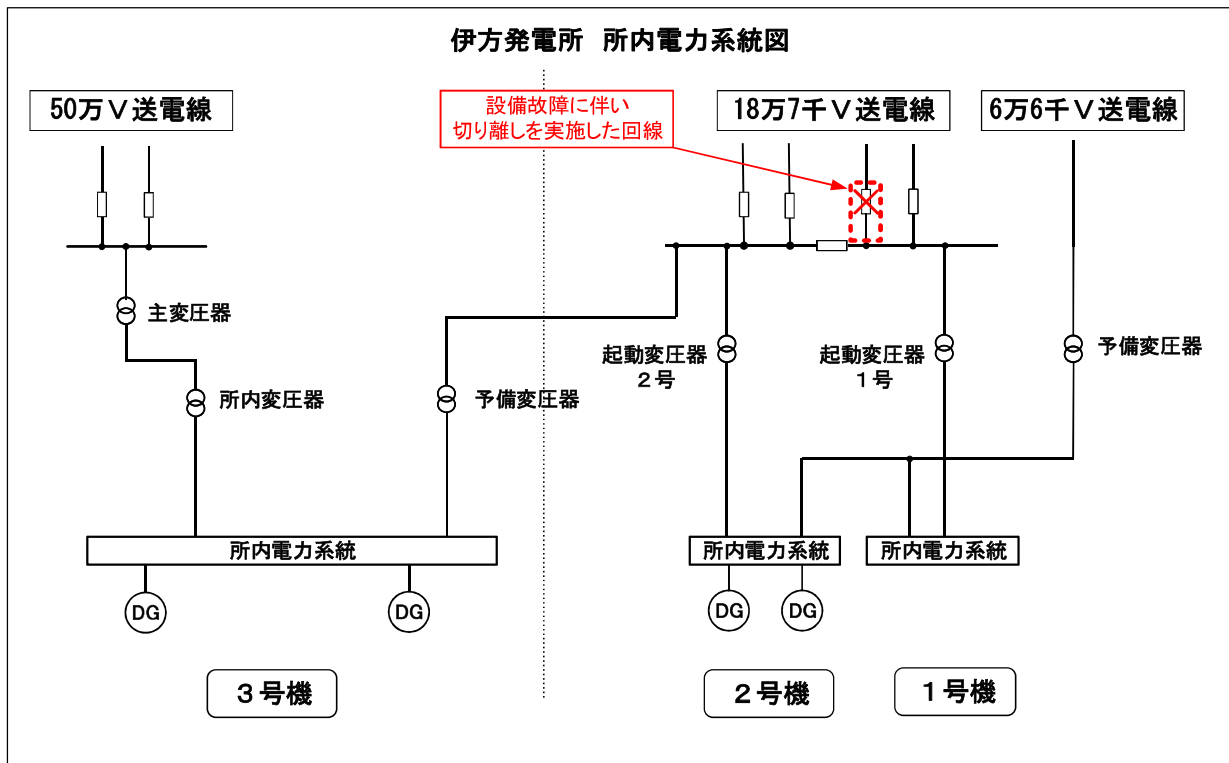
このため、1、2号機は直ちに6万6千Vの予備系統から受電しました。また、3号機は直ちに起動した非常用ディーゼル発電機から受電し、その後、50万V送電線からの受電に切り替えました。これにより、1、2、3号機ともに外部からの受電は復旧しました。

（1月25日お知らせ済み）

調査の結果、18万7千V送電線4回線のうち、1回線から受電する回路の一部に設備故障があることを確認しました。このため、当該回路の切り離しを実施し、本日17時13分、当該回路を含む1回線を除く3回線から受電し、18万7千V送電線からの所内電源を確保しました。

今後、引き続き、原因調査を実施します。

なお、本事象による環境への放射能の影響はありません。



（添付資料）

- ・ 事象発生時における伊方発電所所内電力系統の状態

以上

事象発生時における伊方発電所所内電力系統の状態

事象発生前、18万7千V母線の点検工事に伴う確認試験のため、1、2、3号機の所内電力系統は18万7千V送電線から受電していました。なお、通常、1、2号機は18万7千V送電線から、3号機は50万V送電線から受電しています。

事象発生時、18万7千V送電線の母線保護装置が作動し、18万7千V送電線4回線からの受電が停止しましたが、1、2号機は6万6千V送電線から直ちに自動で受電しました。また、3号機は非常用ディーゼル発電機が直ちに自動起動し、10秒程度で受電しました。その後、50万V送電線からの受電に切り替えた後に、非常用ディーゼル発電機を停止しました。

このように、18万7千V送電線からの受電が一時的に停止しましたが、設計通り、1、2号機は予備系統からの受電に、3号機は非常用ディーゼル発電機からの受電に成功しており、福島第一原子力発電所事故のように、全交流電源が喪失したわけではなく、使用済燃料ピットの温度上昇もわずかであったことから、安全性に影響はありませんでした。

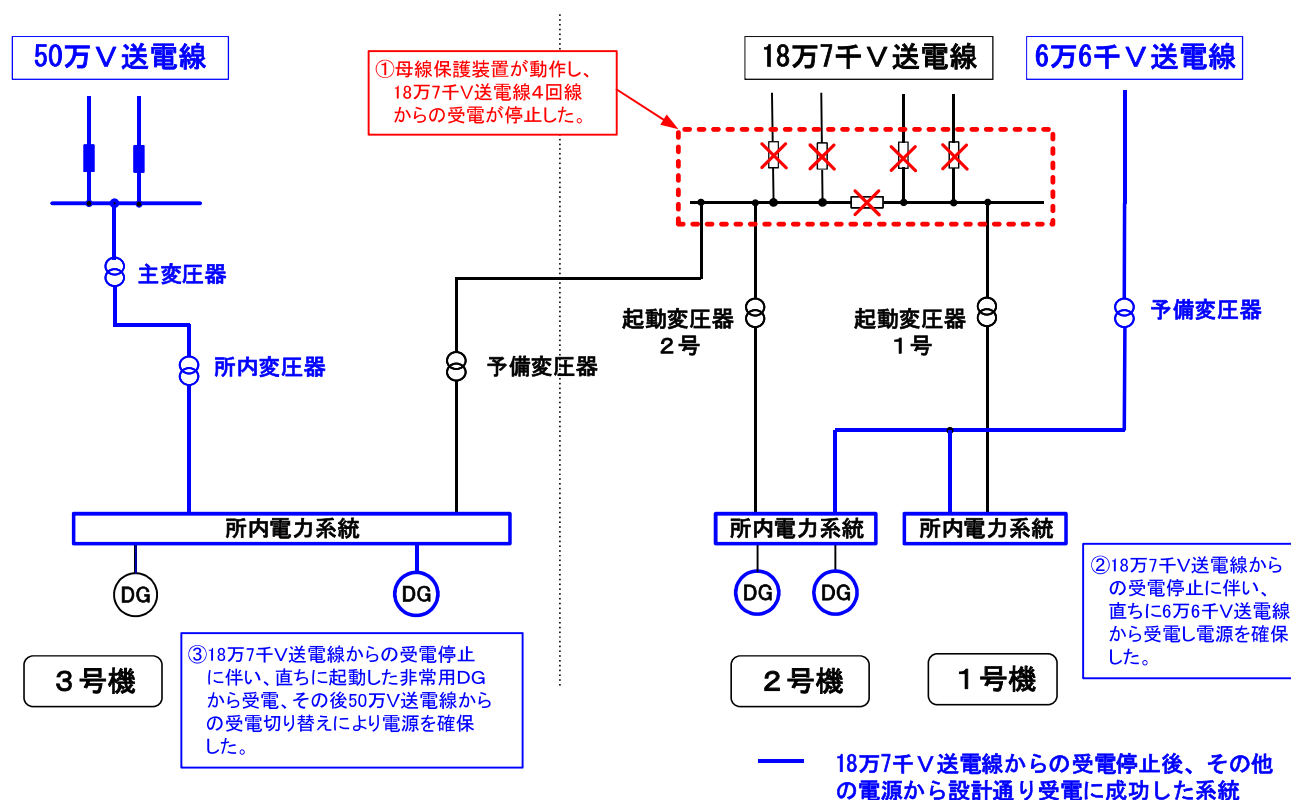


図 事象発生時の伊方発電所所内電力系統の状態